

(37) みょうが

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 根茎腐敗病 <i>Pythium zingiberis</i>	1. 苗は無病圃場で育成する。 2. 5年以上の輪作を行う。 3. 排水をよくして過湿を避ける。 4. 地下水位の高い圃場では高うね栽培を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. キルパーの消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	－	キ ル パ ー
		発 生 初 期	4 21 21	リ ド ミ ル 粒 剤 2 ラ ン マ ン フ ロ ア ブ ル オ ラ ク ル 顆 粒 水 和 剤
2 白絹病	1. 発病株を抜き取る。 2. 株堀取り後に湛水する。 3. 連作を避け、水田との輪作を行う。	発 生 初 期	14	リ ゴ レ ッ ク ス 水 和 剤
3 立枯症	1. 苗は無病圃場で育成する。 2. 連作を避ける。 3. 早期に感染した罹病株は圃場外に持ち出し、処分する。 4. 冬期に耕耘し罹病塊茎の腐敗を促す。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	定 植 前	M3 M3	ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤
4 葉枯病 <i>Mycosphaerella zingiberis</i>	1. 肥料切れを起こさないよう、適切な肥培管理に努める。 2. 日当たりがよく、乾燥しやすい圃場で発生が多い。	発 生 前	M5	ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
5 紋枯病	1. 水田に戻すなど、輪作を行う。 2. 収穫残さは圃場外に持ち出し、処分する。	発 生 初 期	M5	ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
6 ハダニ類	1. 圃場周辺雑草の防除を行う。 2. 収穫後の残さは速やかに処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アファーム乳剤、コロマイト乳剤、コテツフロアブル、マイトコーネフロアブル、サンマイトフロアブル、スターマイトフロアブルは、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により、散布液が直接花穂に飛散しない状態で散布する。	発 生 初 期	6 6 13 20D 21A 25A 25A	ア フ ァ ー ム 乳 剤 コ ロ マ イ ト 乳 剤 コ テ ツ フ ロ ア ブ ル マ イ ト コ ー ネ フ ロ ア ブ ル サ ン マ イ ト フ ロ ア ブ ル ス タ ー マ イ ト フ ロ ア ブ ル ダ ニ サ ラ バ フ ロ ア ブ ル
7 ハスモンヨトウ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. カスケード乳剤、アタブロン乳剤、アグロスリン水和剤は、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により、散布液が直接花穂に飛散しない状態で散布する。	発 生 初 期	15 15 28	カ ス ケ ー ド 乳 剤 ア タ ブ ロ ン 乳 剤 フ ェ ニ ッ ク ス 顆 粒 水 和 剤
		茎 葉 伸 長 期	3A	ア グ ロ ス リ ン 水 和 剤
8 アザミウマ類	1. 圃場周辺雑草の防除を行う。 2. 収穫後の残さは速やかに処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アグロスリン水和剤、スピノエース顆粒水和剤は、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により、散布液が直接花穂に飛散しない状態で散布する。	発 生 初 期	3A 5	ア グ ロ ス リ ン 水 和 剤 ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤
9 カイガラムシ類	1. 圃場周辺雑草の防除を行う。 2. 収穫後の残さは速やかに処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アドマイヤー顆粒水和剤、アクタラ顆粒水和剤、ダントツ水溶剤は、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により、散布液が直接花穂に飛散しない状態で散布する。 2. アクタラ顆粒水和剤はコナカイガラムシ類に登録がある。 3. ダントツ粒剤はナスコナカイガラムシに登録がある。	発 生 初 期	4A 4A 4A	ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤 ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤
10 ネコブセンチュウ	1. 被害株の間引きを行う。 2. 水田への転作が可能などところでは、1～2年間、畑を水田化する。	定 植 前	1B	ネ マ ト リ ン エ ー ス 粒 剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する